

授業改善力を高める「省察」を取り入れてみよう！

【授業実践における省察とは？】

単なる反省でなく、授業実践の変化を起こすことを意識した振り返り

自己課題を明確にし、その解決のための具体策を講じてはじめて授業改善が可能となる

絶えず新たな教授理論に基づく授業改善をしていかなければ、より幅広い選択肢の中から、より有効な具体策をもって授業を構想し、授業実践に臨むことはできない。これを可能にするのが省察である。ただし、表層の授業改善でなく、自身の教授理論を発達させ書き換えていくような深層面での省察による授業改善になっているかが重要となる。



【例】
今日の授業は、なぜ生徒が意欲的でなかったのだろうか？

明日にでも改善可能な、教師自身の“ふるまい”のレベル

今日の授業はしゃべり過ぎたかな・・・

表層

本質的な授業構想や、資質・能力のレベル(教授理論)

より、生徒が主体となる授業にするには・・・

深層

授業の振り返りをする際、その問題を、生徒の問題としてのみとらえたり、教師自身の授業技術やふるまいのレベル等の問題としてのみとらえたりなど表層面での反省に陥りやすい。これを防ぎ、さらに深層レベルでの振り返りを可能にするのが省察である。省察には自己省察と共同省察があるが、なかでも共同省察がこれからは大切となる。

【研究協議における共同省察の重要性】

- ◆ 研究協議で共同省察を取り入れると、授業者の自己省察を深化させるばかりでなく、参加者の省察力を高めることにもつながる。
- ◆ 共同省察では、授業者の授業改善における自己決定性が担保され、授業改善に向けた意欲が喚起されやすい。単なる授業の品評会や批評会とならないためにも、共同省察は重要となる。
- ◆ 長期的な展望に立って子どもを変容させるためには、授業は子どもと教師の相互作用の行為であるという側面の省察が必要である。自己省察だけではその側面の気づきが深まりにくい。共同省察では、逆にそうした側面が話題になりやすく、気づきも多い。

では、どうしたら省察力が高まるのか？

【授業改善力（省察力）向上の流れ】

研究授業を参観、研修に参加

- ① よい授業実践を見たり、研修で授業改善につながる視点等を得たりする。

参観した授業や研修内容を自分なりに考えてみる

- ② **自己省察**をする。
自分の授業と比較する。（Ⅰ **モニタリング力**）まねようとする。（Ⅱ **モデリング力**）

参観した授業や研修内容についてみんなと協議する

- ③ さらに**共同省察**を取り入れることで、より深層レベルでの省察を図る。
共同省察での協議を通して協働性・同僚性の構築も図る。（Ⅳ **コミュニケーション力**）

自分の授業を新たな教授理論に基づき考え直してみる

- ④ 授業改善にむけて、自己課題を明確にし、課題解決に向けた目標設定と、そのための具体策を講じていく。（Ⅲ **マネジメント力**）

その過程で、自分なりの教授理論及びメタ認知的知識を発達させ書き換えていく。

【補足】 ・Ⅰ～Ⅲは省察の重要なファクターで、メタ認知的活動ともいう。

・メタ認知的知識とはメタ認知的活動を適切に実行するための知識のことである。

この流れを意識し、**次の20の要素を参考にすることで省察が高まっていく！**

～省察に関わる4つのカテゴリーとその要素～

I モニタリング力: 他者を通して自己の客観化を図る力

- ① 様々な協議等で他者が話している様子（非言語を含む）をよく見、傾聴し、注意深く聞くようにしている。
- ② 様々な協議等で他者が話している内容について、自分との共通点や相違点を探しながら聞くようにしている。
- ③ 様々な協議等で他者が伝えようとしている中心を押さえながら聞くようにしている。
- ④ 研究授業などにおいて観察者である場合、よい面や改善等が必要な点を探しながら観察するようにしている。
- ⑤ 授業観察の折、他者の授業を自分に置きかえ、自分ならどうするかを考えながら観察するようにしている。

II モデリング力: 他者のよいところを取り込んだり模倣したりして、自己を伸ばす力

- ⑥ 研修や授業研究等で得たグッドモデルや方法等を実践に取り入れようとしている。
- ⑦ 目標とする理想の教師や実践がある、もしくは理想とする教師像や授業像が明確にある。
- ⑧ 研修や授業研究後には必ず振り返りの機会をとり、今後どう生かすかを考えるようにしている。
- ⑨ 他者の授業改善におけるグッドモデルやエラーモデルにその方法を学びとるようにしている。
- ⑩ 研修等を含むあらゆる方法で、自己の目標の達成や課題解決にむけた知識等を得ようとしている。

III マネジメント力: 課題となりそうなことや課題になったことを確実に認識・評価し改善していく力

- ⑪ 1時間毎に授業を振り返り、評価をすることで、自らの課題を明確にして授業改善につなげようとしている。
- ⑫ 単元、学期、年度毎に自分の授業を評価し、自らの課題を明確にして授業改善につなげようとしている。
- ⑬ 自分と他者の目標や課題、課題設定の理由やその解決手法など、相互の共通点や相違点などを探るようにしている。
- ⑭ 生徒による授業評価や授業研究における助言指導などを冷静に受け止め、改善に生かそうとしている。
- ⑮ 授業の在り方について、落ち着いて考える機会を普段からもつようにしている。

IV コミュニケーション力: I～IIIを円滑にすすめるための人間関係を構築できる力

- ⑯ 授業の在り方について、討論したり質問したりする機会を同僚教員ともつようにしている。
- ⑰ 他の先生との関わり方を通して、よりよい人間関係を築く努力をしている。
- ⑱ 生徒との対話を重視し、授業中その他で発言しやすい雰囲気づくりに心がけている。
- ⑲ 授業について、特定の人だけでなく、多くの人から意見をもらうように努力している。
- ⑳ 自分の授業実践や教材などを、周囲の教員と、さらには学校を超えて共有しようという意識をもっている。